



大阪部会(第10回)

日時: 2008年12月27日(土)16:00~18:00

場所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

- (1) 第10回目の部会は20名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、11月26日に岩手・奥州市で実施された「経済教育ワークショップ」やその他の活動についての報告があった。続いて、加藤一誠氏(日本大学経済学部)より、11月29日に福井市で実施された「経済教育ワークショップ」についての報告があった。
- (2) 引き続き、河原和之氏(縄手中学校)から公民の授業で現在使用されているプリントが配布され、その要点説明があった。プリントは教科書(大書)の単元に合わせて作成されている。
 - ①製品の欠陥はメーカーの責任:耐久消費財やサービスなどの商品を生徒にあげさせて、「経済」が身近な教科であることを分からせようとしている。そして、広告などの図柄をみせて、PL法ができる前と後の違いを示している。
 - ②契約とクーリングオフ:まず初めに、いろいろな事例から「契約」に該当するものをあげさせて、契約の意味を理解させる。続いて、契約の成立時期に話を展開させる。さらに、クーリングオフの内容を「替え歌」で生徒に覚えさせようとしている。
 - ③家計の収入と支出:高額納税者のランキング表を使って、勤労所得、財産所得、個人所得など所得の種類を理解させている。ただ、最近では高額納税者のランキング表が公表されていないので、今後この教材を何と差し替えるかを考慮中とのこと。
 - ④どうして紙切れがお札になるの:河原氏の出版された『日本経済学園指定教科書』(共著、日本経済新聞出版社)の一部を用いて、貨幣として不適切なものを考えさせ、その議論の中から、管理通貨制度についての説明に及んでいる。
 - ⑤マクドと缶コーヒーから価格の秘密をさぐる:「タクシーの深夜料金がなぜ高いのか?」「メロン価格はどのように変動するのか?」「富士山のジュースの価格は山頂へ行くほどなぜ高いのか?」といった疑問から価格の決め方を考えていく。
 - ⑥経済についての考え方~「対立」「合意」「効率」「公正」~:大阪府の橋本知事が発言した「公立高定員増検討」問題を教材にして、表記の問題を生徒たちに議論させた。その中から、賛成と反対の意見をそれぞれ新聞社に投稿させるインセンティブを与えた。
- (3) その後、プリントに対する感想が述べられた。特に、⑥のテーマについては、「新学習指導要領」で、政治の分野では「対立」と「合意」が、経済の分野では「効率」と「公正」が強調されているので、それを意識して教材作りした苦勞が伺える。このような指摘の中で、「効率」と「公正」は、決して相反する概念でないことを教えていく大切さについての意見があった。

(文責:西村理)